

Kansai Economic Insight Monthly

2013/07/17

Vol.3 June/July

・ APIR “ Kansai Economic Insight Monthly” は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ 本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・ レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 研究統括）、岡野光洋・林万平・劉洋（各 APIR 研究員）です。

・ 本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2-5
中国景気モニター	6-7
主要月次統計	8
Release Calendar	9

要旨

- ✓ 5月の関西の鉱工業生産指数は前月比+0.7%と3カ月連続の上昇。4-5月平均の生産は1-3月平均比+1.5%高い水準となっており、前期に匹敵する好調を維持している。
- ✓ 5月の関西の輸出額は円安の影響もあり前年比+11.1%と3カ月連続の増加。地域別では、アジア、中国、米国向け輸出は増加するも、EU向けは減少。
- ✓ 6月の消費者態度指数は関西・全国ともに前月から低下した。景気ウォッチャー現状判断DIはともに3カ月連続で低下。先行き不透明感が増している。
- ✓ 5月の関西の大型小売店販売額は、全国ともに2カ月ぶりの前年比プラス。6月に、あべのハルカス近鉄が開業しており、引き続き、関西の消費には期待が持てる。
- ✓ 5月の関西の新設住宅着工戸数は前年比+30.6%と3カ月ぶりに上昇。消費増税による駆け込み需要に加え、相続税制の改正に伴う節税対策の増加が影響していると思われる。
- ✓ 5月の有効求人倍率は関西・全国ともに改善が続いており、リーマン・ショック期前(2008年8月)の水準に回復。
- ✓ 6月の関西の公共工事前払保証額は前年比+17.8%と2カ月連続のプラス。しかし季節調整値で見ると、3カ月ぶりのマイナス。
- ✓ 5月の建設工事(民間+公共)は13カ月連続の前年比プラス。引き続き増加を続けている。
- ✓ 2013年4-6月期中国の実質GDP成長率は前年同期比+7.5%となり、前期(同+7.7%)よりさらに減速した。
- ✓ 中国の6月の工業生産は前年同月比+8.9%となり、前月からさらに減速している。
- ✓ 6月の中国製造業PMIは前月からさらに低下。うち、生産、新規受注、輸出新規受注、雇用いずれの指数も前月から低下し、特に輸出新規受注と雇用の低迷は長びいている。
- ✓ 中国経済の低迷を反映し、6月の世界の対中輸出(ドルベース)は前年比+1.1%となり、5月と同様低迷している。

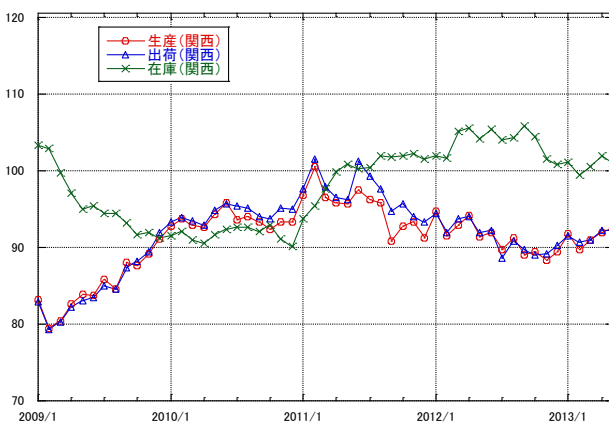
【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

関西における5月の鉱工業生産指数(速報値:季節調整済)を見ると、生産は92.5で前月比+0.7%と3カ月連続の上昇。4-5月平均の生産は1-3月平均比+1.5%高い水準となっており、1-3月期の伸び(前期比+2.0%)に匹敵する好調を維持している。一方で、出荷は92.2で同-0.1%、在庫は、101.0で同-0.9%といずれも3カ月ぶりの下落となっている。

業種別にみると、一般機械工業(+10.1%)、電気機械工業(+11.5%)、石油・石炭製品工業(+16.4%)等が上昇した。一方、化学工業(除.医薬品)(-3.2%)、電子部品・デバイス工業(-2.9%)、輸送機械工業(除.鋼船・鉄道車両)(-2.5%)等が低下した。一般機械工業や電気機械工業の生産が増加に転じ、生産は引き続き上昇している。

鉱工業指数の推移(関西:2013年5月まで、平成17年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」(平成25年7月9日公表分)、近畿経済産業局

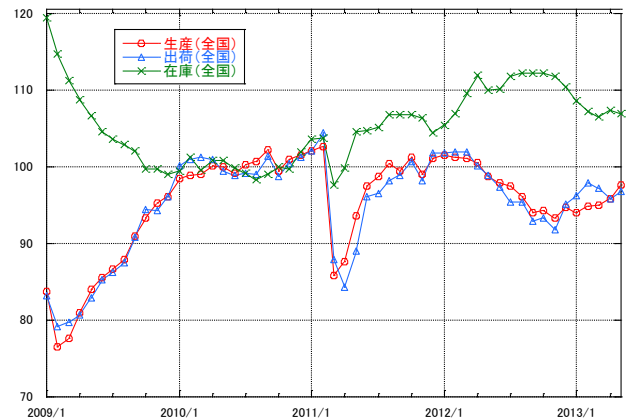
(2) 全国の生産動向

全国における5月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は97.7となり前月比+1.9%で4カ月連続の上昇、出荷は96.8で同+1.0%と3カ月ぶりの上昇、在庫は107.0で同-0.4%と2カ月ぶりの低下となった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業(+7.5%)、電気機械工業(+6.0%)、電子部品・デバイス工業(+2.1%)等が増加した。一方で、輸送機械工業(-3.7%)、その他工業(-0.6%)、

鉄鋼業(-0.8%)等が低下した。ウェイトの大きな業種はおおむね生産増を維持しているが、輸送機械が2カ月ぶりに減産に転じた。6月も減産が予測されており、今後の生産動向を注視する必要がある。

鉱工業指数の推移(全国:2013年5月まで、平成22年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「鉱工業指数」(平成25年7月12日発表)、経済産業省

【輸出入動向】

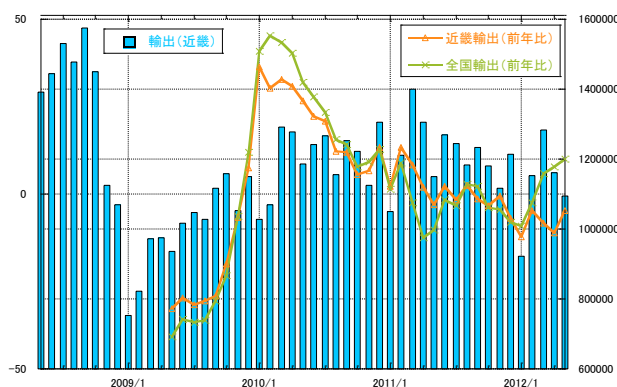
(1) 輸出

近畿圏における5月の輸出額(速報値)は1兆2,169億円、前年同月比+11.1%と3カ月連続の増加。純輸出は-426億円となった。半導体等電子部品、科学光学機器、鉱物性燃料が大幅に増加している。

地域別では、アジア(同+12.6%)、中国(同+11.5%)、米国向け(同+18.8%)輸出は増加するも、EU向け(同-7.3%)は減少している。前月に引き続き、全国、近畿とも米国向け輸出の伸び率は高水準で推移も、EU向け輸出は減少傾向にある。

全国の5月の輸出額(速報値)は5兆7,676億円、前年同月比+10.1%と3カ月連続の増加。円安の影響もあり、輸出は近畿、全国共に大きく改善してきている。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%) 推移(2013年5月まで)



(出所)「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」(平成25年5月分(速報値)、6月19日発表)、大阪税関調査統計課)

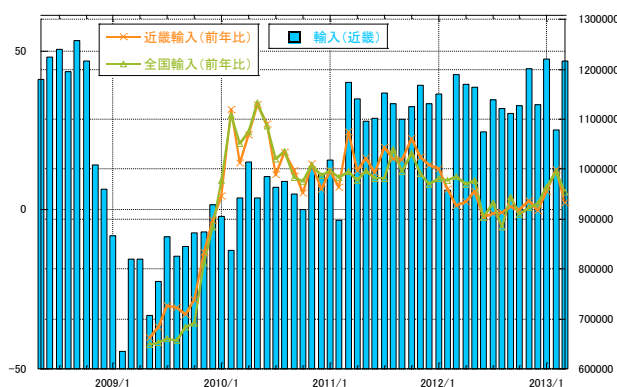
(2) 輸入

近畿圏における5月の輸入額(速報値)は1兆2,596億円、前年同月比+8.2%と5カ月連続の増加。輸入は引き続き高水準で推移しており、通信機、衣類及び同付属品、半導体等電子部品、が大幅に増加している。

地域別では、アジア(前年同月比+16.1%)、中国(同+12.6%)、米国(同+9.0%)、EU(同+14.3%)からの輸入がいずれも大幅に増加となっている。

全国の5月の輸入額(速報値)は6兆7,616億円、前年同月比+10.0%と7カ月連続の増加となっている。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%) 推移(2013年5月まで)



(出所)「財務省貿易統計」(平成25年5月分(速報値)、6月19日発表)、財務省)

【消費者センチメント】

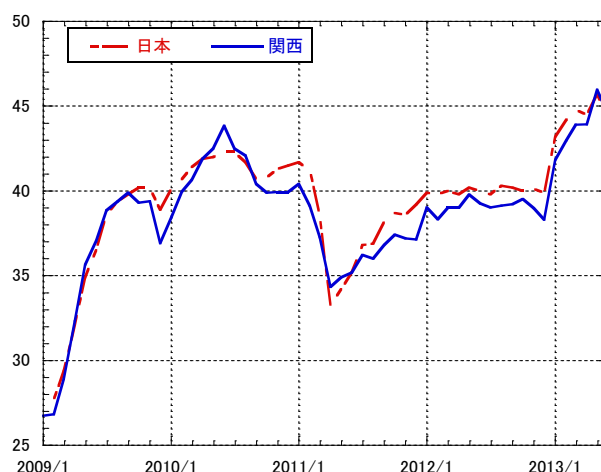
(1) 消費者態度指数

関西の6月の消費者態度指数(原数値)は前月比-1.5ポイント下落し44.5となった。6カ月ぶりのマイナス。同指数の内訳をみると、「雇用環境」の落ち込みが同-3.3ポイント(7カ月ぶりのマイナス)と顕著であるほか、「暮らし向き」が同-0.6ポイント、「収入の増え方」が同-1.4ポイントといずれも2カ月ぶりに悪化した。また「耐久消費財の買い時判断」が同-0.4ポイント下落した(6カ月ぶりのマイナス)。

全国の6月の消費者態度指数(季節調整値)は44.3となり、同-1.4ポイント下落した。

消費者態度指数は依然高水準が続いているものの、6月は関西・全国ともに前月から低下した。

消費者態度指数(2013年6月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」(平成25年7月10日公表)

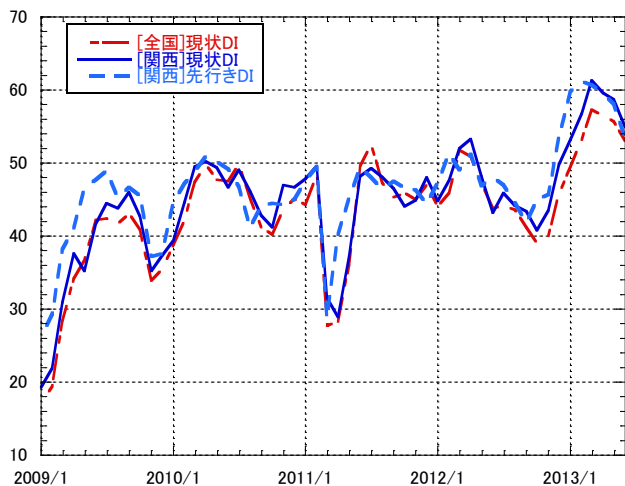
(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の6月の現状判断DIは前月比-3.8ポイントの54.9と、3カ月連続で低下した。低下理由としては、百貨店を中心に高額商品の売上げは好調が続いているものの、株価や為替の不安定な動きが心理的にマイナスに働いたようである。全国の現状判断DIも、同-2.7ポイントの53.0と3カ月連続で低下している。

関西の先行き判断DIは同-4.6ポイントの53.5と、4カ月連続で低下。ボーナス支給額の増加効果が期待される場所であるが、影響は一部にとどまっているようである。

また全国の先行き判断 DI も同-2.6 ポイントの 53.6 と、2 カ月連続で低下している。

景気ウォッチャー調査(2013年6月まで)



(出所) 内閣府(平成25年6月8日公表)

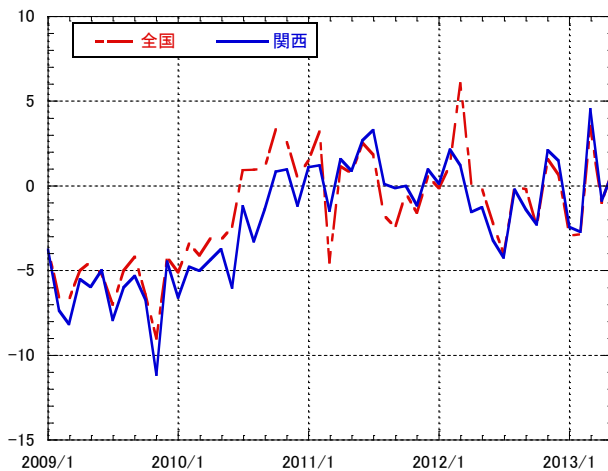
【個人消費・住宅】

(1) 大型小売店販売額

関西の5月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.8%と2カ月ぶりのプラス。百貨店は同+3.5%と7カ月連続のプラス。一部店舗の増床・リニューアル効果に加え、気温の上昇に伴い季節商品が活発に動き出した(近畿経済産業局)。6月13日にはあべのハルカス近鉄が開業しており、引き続き、関西の消費には期待が持てる。

なお全国の5月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.9%。2カ月ぶりのプラスとなった。

大型小売店販売額(前年同月比: %、2013年5月まで)



(注) 福井県を含む。

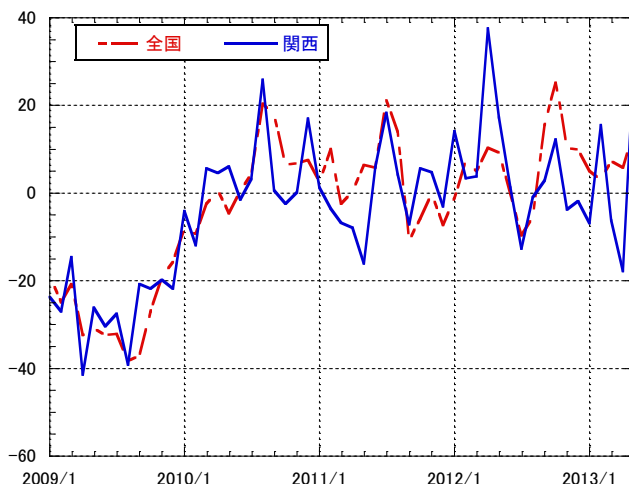
(出所) 近畿経済産業局(平成25年7月3日公表)

(2) 新設住宅着工の動向

関西の5月の新設住宅着工戸数は12,403戸。前年同月比+30.6%と3カ月ぶりに上昇。利用関係別にみると、貸家が同+67.8%と大幅に上昇。持家は同+17.7%、分譲も同+17.0%と上昇している。

一方、全国の5月の新設住宅着工戸数は同+14.5%と9カ月連続で上昇している。消費増税による駆け込み需要に加え、相続税制の改正に伴う節税対策が影響していると思われる。

新設住宅着工(前年同月比: %、2013年4月まで)



(出所) : 国土交通省「住宅着工統計」(平成25年6月28日公表)

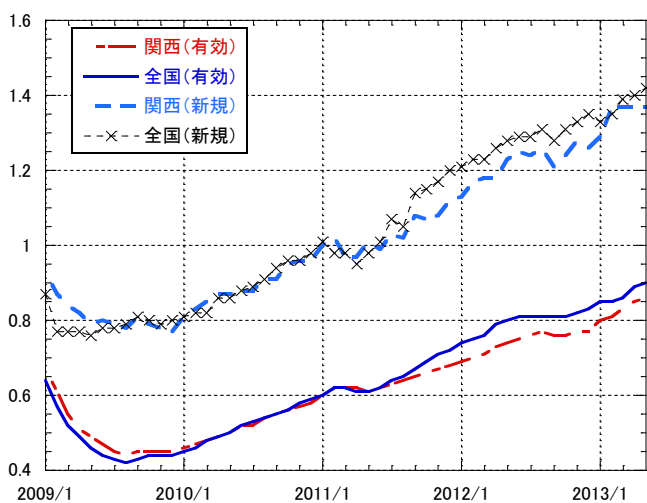
【雇用】

(1) 有効求人倍率の動向

5月の近畿の有効求人倍率は0.86倍、前月から0.01ポイントの小幅改善。2008年8月リーマン・ショック前の水準(0.86)に回復。全国は0.90倍で、同0.01ポイントの改善。結果、2008年6月以来の0.9台に回復。

地域別では、自動車の好調を受け東海が1.11倍と高水準。また建築など復興需要を背景に東北が1.01倍と高い。

有効求人倍率の推移 (季節調整値、2013年5月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(平成25年6月28日公表)

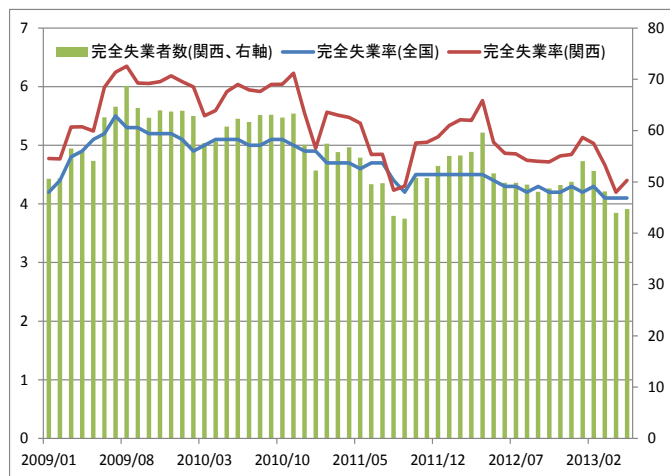
地域別有効求人倍率 2013年5月

	全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
5月	0.90	0.70	1.01	0.91	0.85	1.02	1.11	0.86	1.02	0.95	0.74
4月	0.89	0.68	1.00	0.88	0.83	0.99	1.07	0.85	0.99	0.94	0.73

(2) 完全失業率の推移

5月の近畿の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は4.4%と前月から+0.2%ポイント上昇し、4カ月ぶりに悪化。5月の近畿の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は44.7万人。前月から0.7万人の増加。5月の全国の完全失業率(季節調整値)は4.1%。前月の水準を維持。

完全失業率の推移 (季節調整値、2013年5月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」(平成25年6月28日公表)

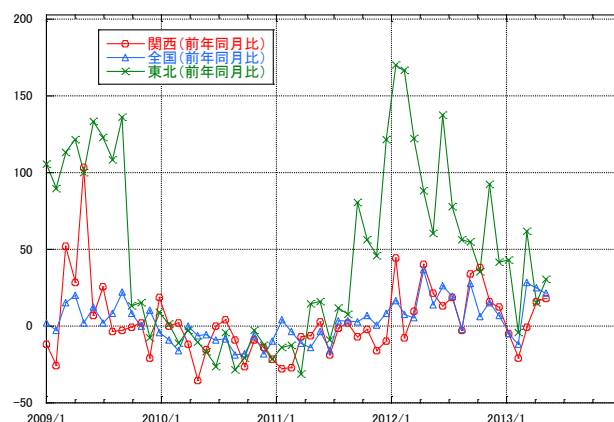
【公共投資】

(1) 公共工事前払保証額

関西6月の公共工事前払保証額は1,506億円。前年同月比+17.8%と2カ月連続のプラス。全国6月の公共工事前払保証額は1兆3,868億円。前年同月比+21.7%と3カ月連続のプラス。東北の公共工事前払保証額は2,218億円と同+30.7%で3カ月連続のプラスとなった。

季節調整値(APIR推計)で見ると、6月の受注は関西、全国とも前月比で3カ月ぶりの減少となっている(関西:-12.2%、全国:-11.8%)。

公共工事前払保証額(前年同月比:%, 2013年6月まで)

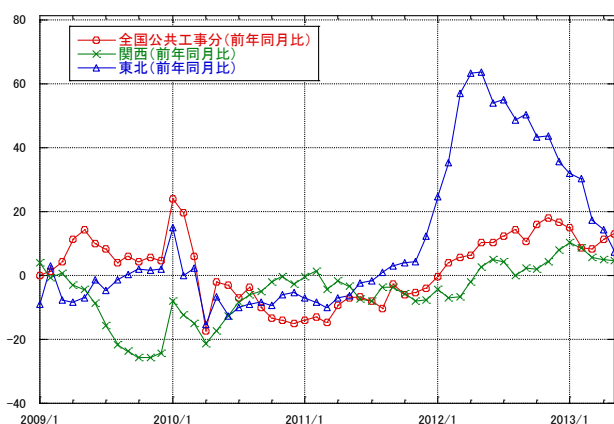


(出所) 「公共工事前払金保証統計」(平成25年6月分、7月10日発表)、東日本建設業保証株式会社

(2) 建設工事

関西における5月の建設工事(民間+公共)は4,261億円。前年同月比+4.8%と13カ月連続のプラス。東北の建設工事は3,465億円と同+7.5%となった。22カ月連続のプラスだが、拡大幅は昨年5月をピークに縮小が続いている。なお同月の全国の建設工事(公共)は1兆1,898億円。前年同月比+12.9%と16カ月連続のプラス。

建設工事(前年同月比: %, 2013年5月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」(平成25年5月分、7月17日発表)

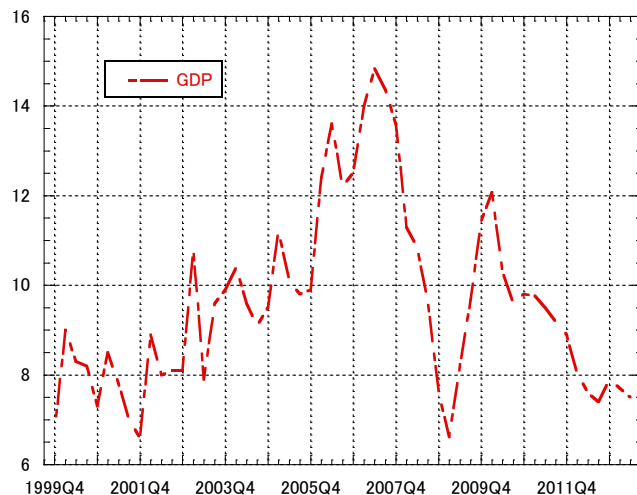
【中国景気モニター】

(1) GDP

2013年4-6月期の実質GDP成長率は+7.5%となり、第一四半期の+7.7%と比べてさらに減速した。そのうち、第一次産業の成長率+3.0%、第二次産業は+7.6%、第三次産業は+8.3%となっている。

貢献率からみると、1-6月期のGDP成長(7.6%)のうち、資本形成は53.9%となり、最終消費は45.2%、純輸出入は0.9%となっている。対外貿易に依存していない成長が続いていると言えよう。

GDP成長率(前年度同期比: %, 2013年1-6月期まで)

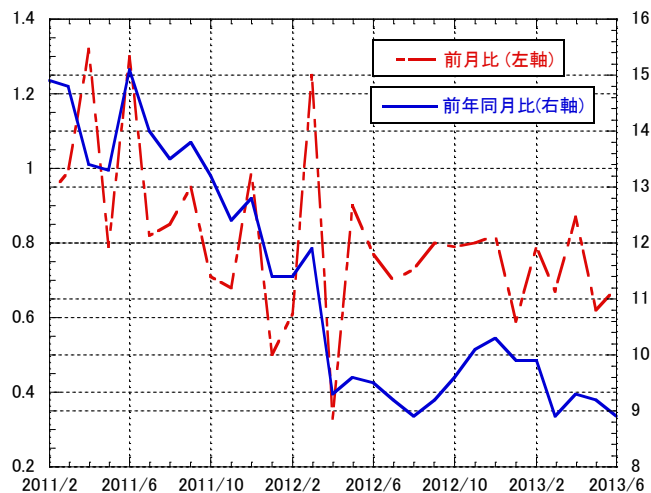


出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 工業生産

6月の工業生産は前月比+0.7%となり、5月の同+0.6%からやや増速したが、前年同月比では、6月は+8.9%となり、5月の減速を続け(4月は9.3%、5月は9.2%であった)、さらに低下した。工業生産は伸び悩んでいる。

工業生産指数(2013年6月まで: %)



出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

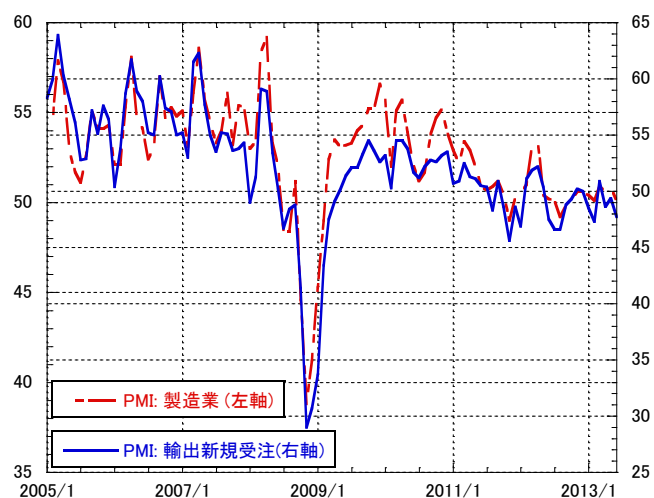
(3) センチメント

全体的に見て、製造業の購買担当者景況指数(PMI)は2012年4月をピークに低下して、回復の兆しはまだ見られない。同指数は、2013年6月に50.1となり5月(50.8)より低下し

た。生産指数と新規受注指数はそれぞれ52.0と50.4となり、いずれも5月(53.3, 51.8)より低下。さらに、輸出新規受注は47.7となり、5月(49.4)より低下し、50を下回るレベルが続いている。

また、6月の雇用指数は48.7と前月に引き続き50を割り込んでいる。企業の求人が今後も低迷することを示唆している。

中国製造業購買担当者景況指数 (2013年6月まで：%)



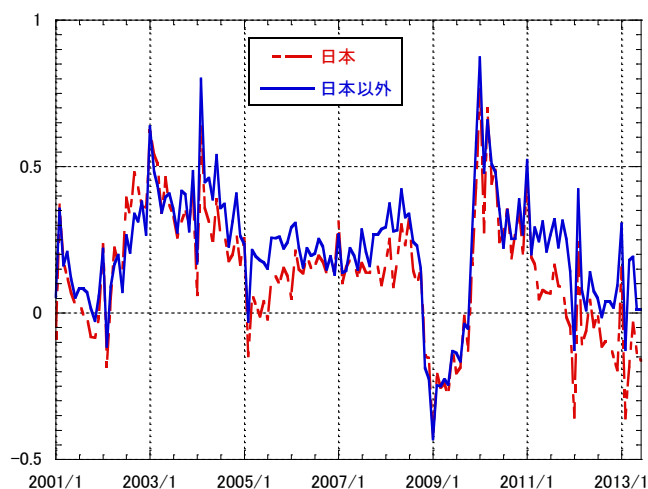
出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 貿易動向

世界の対中国輸出総額(除く日本)は、6月に前年同月比+1.1%(速報、ドルベース、APIR 計算)となり、5月の水準並みで、4月の同+19.2%より大幅な低下が続いている。

日本の対中国輸出は、2011年4月から減少する傾向が見られる。13年6月の伸びは同-16.2%(速報、ドルベース、APIR 計算)となり、5月の同-13.6%(ドルベース、APIR 計算)に比してマイナス幅は拡大している。円ベースに換算するとプラスの変化となるが、成長幅は低下している。

世界の中国への輸出 (前年同月比) (2013年6月まで：%)



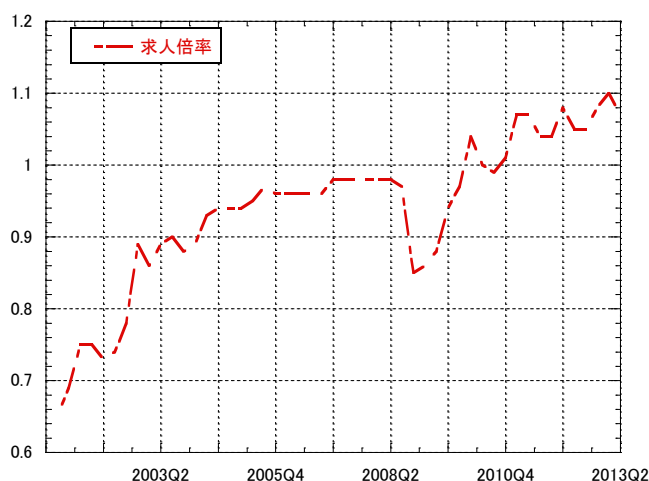
出所：中国税関; CEIC データベース

(5) 労働市場動向

求人求職倍率について、第2四半期の有効求人倍率は1.07になり、第1四半期より低下した。求人数と求職者数を見ると、求人数は前年同期比5.7%減少し、求職者数は7%減少した(同94主要都市ベース)。

地域別には、東部の求人倍率は1.04、中部1.09、西部1.13となっている。西部に目立った経済発展は示されている。

求人求職倍率 (2013年第2四半期まで)



出所：中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース

ス

Contact: 岡野光洋・林万平・劉洋

Tel. 06-6485-7695, E-mail. contact@apir.or.jp.

Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
01-Jul 日銀短観(6月調査) 乗用車新車販売台数 (6月) 中国製造業 PMI(6月)	02-Jul	03-Jul 大型小売店販売状況 (5月:近畿地域)	04-Jul	05-Jul 景気動向指数 (5月:速報値)
8-Jul 景気ウォッチャー調査 (6月)	9-Jul 近畿鉱工業生産動向 (5月速報)	10-Jul 消費動向調査(6月) 公共工事前払保証統計 (6月) 中国輸出入 (6月:速報値)	11-Jul	12-Jul 全国鉱工業生産動向 (5月確報)
15-Jul 中国四半期 GDP (第2四半期) 中国工業生産(6月) 中国固定資本投資 (1-6月) 中国消費小売総額(6月)	16-Jul マンション契約率(6月)	17-Jul 建設総合統計 (5月)	18-Jul 毎月勤労統計 (5月:確報値)	19-Jul 景気動向指数 (5月:改訂値)
22-Jul	23-Jul	24-Jul 近畿圏貿易概況 (6月) 全国貿易統計 (6月)	25-Jul 近畿鉱工業生産指数 (5月確報)	26-Jul 全国消費者物価指数 (6月)
29-Jul 小売業販売額(6月)	30-Jul 全国鉱工業生産指数 (6月速報) 完全失業率(6月) 家計消費支出(6月)	31-Jul 毎月勤労統計 (6月:速報値) 新設住宅着工(6月)	1-Aug	2-Aug